



【書評】尾原昭夫編著『宮澤賢治の音楽風景』—音楽心象の土壌—風説社刊

A5判 二二三ページ 定価二、二〇〇円



宮澤賢治

酒井董美^{ただよみ}
尾原昭夫氏は昭和七年、出雲市斐川町生まれ。わが国のおらべ歌、児童風俗研究の第一人者として知られている。

本書は岩手県生まれの詩人・童話作家、宮澤賢治（一八六〇—翌昭和一九三〇昭和心）の作品の背景について、主として音楽の角度から解明を試みた労作である。それも暦年風にと政治、戦局などの時代背景を示し、内外の音楽作品や文芸、児童雑誌の誕生に触れつつ、宮澤賢治の生活歴をまとめている。尾原氏は子ども時代から宮澤賢治に親しみ、音楽専攻であるところから、本書に示された分析手法は余人の追隨を許さぬものがある。目次からその項目を挙げておく。東北・岩手の災害史をひもとく—序にかえて、賢治出生前の生活・文化・音楽環境、幼児期の生活・文化・音楽環境、小・中学校時代の生活・文化・音楽環境、高等農林学校時代の生活・文化・音楽環境、花巻農学校教諭時代の生活・文化・音楽環境、羅須地人協会時代の生活・文化・音楽環境、東北砕石工場技師時代の生活・文化・音楽環境。—の後に「参考書」として資料一覧があり、最後に、あとがき・世界がぜんたい幸福に、となっている。

掲載されている資料は本書の性質上楽譜だけでなく八十点を超え、イラストや、建物や風景の写真も五十点余りあり、教科書の表紙などの文献のいづれもがカラーなので、読む立場から見れば、実物に接しているような迫力が感じられる。一部を挙げると、明治十四年の『小學唱歌集初編』表紙と楽譜のある本文。同十九年の岡本岱次郎編『簡易戸外遊戯法』記載の遊戯イラスト。写真では『風の又三郎』の舞台、種山ヶ原山麓旧木細工分教場校舎、賢治設計の花壇（現総合花巻病院）、日時計（ボランの広場・再現）などである。生前の賢治に接した親族、先輩、同僚、教え子などの思い出も豊富に引用され、法華経に心酔、常に農民の味方だった賢治の人柄を余すところなく捉えている。後に島根大学学長となった早坂一郎氏が東北大学助教授時代、賢治の案内で北上川小舟渡で、バタグミの化石発見で学会に貢献したエピソードも紹介されており、早坂先生を知る筆者には嬉しいことであった。

尾原昭夫氏の執念で完成した本書は、今後、宮澤賢治研究の必携書となることは間違いない。（元島根大学法文学部教授）